

## 周りの人に鍼灸させてもらおう

### (1) 自分の鍼灸のファンを増やす

先急（応急処置）と養生（慢性期）が講座などで一通りできるようになり、自分に鍼灸する自己養生もある程度できるようになったら、普段に付き合いのある周りの人に鍼灸させてもらおう。そして、少しずつ自分の患者さんを増やしていく。

「鍼灸院を経営すると言うのは、自分のファンクラブを作るようなもの」と言った先生がいた。名言だと思う。鍼灸して喜んでもらえる人を少しずつ増やし、自分の鍼灸のファンを増やしていこう！

でも、無理してファンが減ったら逆効果なので、無理のない範囲で少しずつ増やしていく。例えば、鍼灸ができなかった時代を知っている人には、信用してもらいにくい。特に、目上の家族、親戚、子供の頃の友人は、難しい。そういう人に、初めて鍼灸したときに「痛い!」、  
「熱い!」と思われたら、それからは鍼灸させてもらえなくなる。特に、結果が出なかったら、不信感をもたれ、それから鍼灸させてもらえる可能性は非常に低い。まずは、痛くない鍼、熱くない灸で結果を出すこと。

逆に、結果を出して、そういう人たちが調子の悪くなったときに「鍼灸して」と言ってくるようになったら、しめたもの。それが、治療家としての「初めの一步」。そして、そういう鍼灸ができなかった頃からの知り合いに結果を出せば、鍼灸を身に付けてから知り合った人には、比較的簡単に上手くいくことが多い。

### (2) 自分に太い鍼を痛くなく

だから、まずは、たっぷり鍼灸で自己養生して、結果を出すことを積み重ねる。しかも、痛くない刺鍼ができるように練習する。

そのため、自分に刺すときには、患者さんに刺す鍼よりも太い鍼を使う。ディスプレイ鍼の5番位が自分に痛くなく刺せれば、1,2番の鍼を刺して痛がられることは少ない。痛がられたら、自分に刺せる鍼を太くしていく。筆者は、30番まで自分に刺せるよう練習した。

### (3) 簡単な処置から

そして、やらせてもらうときも、まずは、自己養生の場合と同じように、運動器系の症状への簡単な処置から始める。手足陽経の肘膝から先、特に手足甲に、肩・腰を始め運動器系の痛みを引く。しかも、初めは陽経側のみ。足甲は第2指から第5指に繋がる骨間。

p8「[2] 手足甲のツボで運動鍼」などを参考に手足甲のツボを探す。左右×前横後の6分類が基本。肩など上半身なら手甲。腰など下半身なら足甲。そこに円皮鍼や粒鍼を貼る。声を掛け、患部などを辛くない範囲で、ゆっくり動かしたり戻したりを繰り返してもらう。だんだん動きが大きくなれば効果が出ている。

次は、刺鍼させてもらいやってみる。痛がられないように、そっと刺す。患者さんの体に反応があったら、深さを変えず、少し引き気味にしながら弾いたり擦ったりする。そして、声を掛け、運動鍼。

手足甲への刺鍼以外では、井穴、骨空、節紋などの指周りのツボに糸状灸で引くのもよい。手指用糸モグサでもよい。特に、麦粒腫やにきびや口角炎などの顔の炎症、カゼの初期の発熱や項背の強張りなどの内科系症状は、手指のツボへの灸が効果的。足親指指端の灸も内科系症状に効く。

顔の炎症は、鼻・目頭などなら拇指、口角・腫などなら示指、目尻などなら中指、耳周りなら薬指の可能性が高い。が、隣の指に出ることもある。骨空が効果的。

カゼの初期には、拇指と小指の井穴にツボが出ていることが多い。灸の他、粒鍼を貼っておくのも効果的。灸を熱がる人には、こちらの方が向く。

足甲のツボに灸点紙を貼って灸するよいし、釜屋ミニ、千年灸などの間接灸でもよい。内科系の症状には、足の親指の爪の上に間接灸をするのも効果的。ノボセを防ぐため、足三里の灸を仕上げにするといい。

そういう感じで結果を積み上げ、調子の悪いときに鍼灸してと言ってくるようになったら、だんだん、頭首胴にも鍼灸させてもらおう。ただし、あせらないこと。